

**2022年度（2023年3月期）  
第3四半期連結累計期間  
（2022年4月～12月）  
決算説明資料**

2023年1月30日  
FDK株式会社

進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために

© 2023 FDK CORPORATION

2022年度第3四半期決算概要について、ご説明いたします。

1. 2022年度第3四半期の業績	
2022年度第3四半期連結決算概要	3
営業利益変動要因（前年同期比）	4
連結貸借対照表	5
セグメント別情報	6
2. 2022年度（通期）見通し	8

今回ご説明させていただき内容です。

## 2022年度第3四半期連結決算概要

**FDK**

(単位：億円)

	2021年度 3Q	2022年度 3Q	前年同期比	
			増減率	
売上高	456.2	468.1	+11.9	+2.6%
営業利益 (営業利益率)	19.6 (4.3%)	8.2 (1.8%)	△11.4 (△2.5pt)	△58.3%
経常利益 (経常利益率)	18.3 (4.0%)	8.9 (1.9%)	△9.3 (△2.1pt)	△51.1%
四半期純利益※ (純利益率)	19.0 (4.2%)	5.0 (1.1%)	△14.0 (△3.1pt)	△73.6%

※親会社株主に帰属する四半期純利益

1株当たり四半期純利益	55.27円	14.60円	△40.67円
-------------	--------	--------	---------

為替レート (円/1USD)	111.00円	135.71円	+24.71円
(円/1EUR)	130.92円	140.28円	+9.36円

ROIC※	6.2%	1.2%	△5.0pt
-------	------	------	--------

※ROIC = 税引後営業利益 / (自己資本 + 有利子負債)

※0.1億円未満切り捨て

© 2023 FDK CORPORATION

はじめに、連結決算概要です。

■ 電池事業の売上高はリチウム電池が円安効果も加わって増加したものの、ニッケル水素電池やアルカリ乾電池、設備関連ビジネスが減少したことにより、事業全体として減収となりました。電子事業の売上高は各種モジュールやスイッチング電源などが増加したことにより、事業全体として増収となりました。

この結果、売上高は前年同期に比べ11.9億円増加の468.1億円となりました。

■ 営業利益は各種モジュールの売上増や経費削減による利益増加がありましたが、原材料価格高騰の影響や電池事業の売上減により、前年同期に比べ11.4億円減少の8.2億円となりました。

■ 経常利益は前年同期に比べ9.3億円減少の8.9億円となりました。

■ 四半期純利益は鳥取県からの補助金収入2億円を特別利益として計上しましたが、前年同期に4.5億円の関係会社清算益を特別利益として計上したことや法人税等調整額の増加により前年同期に比べ14億円減少の5億円となりました。

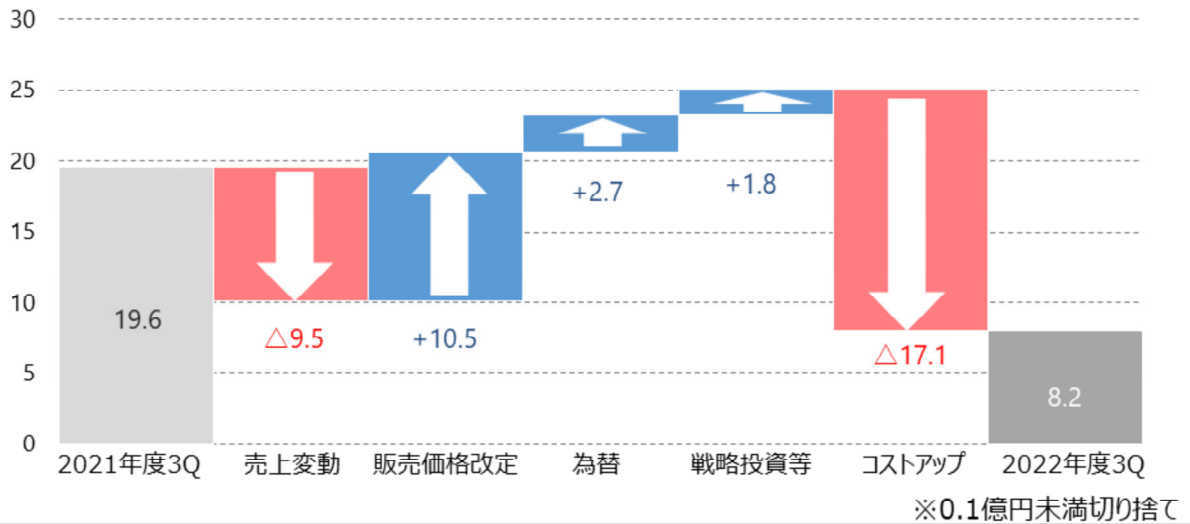
■ ROICは前年同期に比べ5pt減の1.2%となりました。

# 営業利益変動要因（前年同期比）

**FDK**

（単位：億円）

	2021年度 3Q	2022年度 3Q	前年同期比	
			増減額	増減率
営業利益 (営業利益率)	19.6 (4.3%)	8.2 (1.8%)	△11.4 (△2.5pt)	△58.3%



© 2023 FDK CORPORATION

次に、営業利益の変動要因です。

■国内外での在庫調整に伴う売上変動で9.5億円減益となりました。

一方、販売価格改定による10.5億円増益や為替影響の好転2.7億円増益、戦略投資等1.8億円増益となったものの、原材料価格高騰の影響による17.1億円減益の影響が大きく、前年同期に比べ11.4億円減益の8.2億円となりました。

# 連結貸借対照表

FDK

(単位：億円)

科目	2021年度	2022年度 3Q	増減	科目	2021年度	2022年度 3Q	増減
<b>流動資産</b>	319.9	324.8	+4.8	<b>流動負債</b>	314.5	313.6	△0.8
(商品及び製品)	(36.5)	(33.5)	△2.9	(支払手形及び買掛金)	(96.2)	(104.6)	+8.4
(仕掛品)	(25.8)	(30.9)	+5.1	(短期借入金)	(121.9)	(118.6)	△3.3
(原材料及び貯蔵品)	(44.1)	(51.8)	+7.6	(未払金)	(17.7)	(23.1)	+5.3
<b>固定資産</b>	149.0	151.4	+2.4	<b>固定負債</b>	29.9	30.1	+0.1
(有形固定資産)	(140.3)	(144.3)	+3.9	(退職給付に係る負債)	(22.8)	(19.8)	△3.0
				(その他固定負債)	(1.5)	(4.5)	+3.0
				<b>負債合計</b>	<b>344.4</b>	<b>343.7</b>	<b>△0.6</b>
				<b>株主資本</b>	124.5	129.5	+5.0
				(利益剰余金)	(△454.3)	(△449.2)	+5.0
				その他の包括利益累計額	0.0	2.9	+2.8
				(為替換算調整勘定)	(15.6)	(16.5)	+0.8
				(退職給付に係る調整累計額)	(△16.0)	(△13.9)	+2.0
				<b>純資産合計</b>	<b>124.6</b>	<b>132.5</b>	<b>+7.9</b>
<b>資産合計</b>	<b>469.0</b>	<b>476.3</b>	<b>+7.2</b>	<b>負債純資産合計</b>	<b>469.0</b>	<b>476.3</b>	<b>+7.2</b>
自己資本比率	26.6%	27.8%	+1.2pt	有利子負債残高	123.4	119.6	△3.7

※0.1億円未満切り捨て

© 2023 FDK CORPORATION

次に、連結貸借対照表です。

■ 総資産は、前年度に比べ7.2億増加の476.3億円となりました。

■ 流動資産は、前年度に比べ4.8億円増加の324.8億円、固定資産は前年度に比べ2.4億円増加の151.4億円となりました。

流動資産増加の主な要因は、材料入手難による生産遅延や原材料価格の高騰、電子部品や樹脂部品の調達難に伴う戦略的な先行手配などにより、原材料及び貯蔵品や仕掛品などの棚卸資産が9.8億円増加したことによるものです。固定資産増加の主な要因は、有形固定資産が3.9億円増加したことによるものです。

■ 負債合計は、前年度に比べ0.6億円減少の343.7億円となりました。

■ 流動負債は前年度に比べ0.8億円減少の313.6億円、固定負債は前年度に比べ0.1億円増加の30.1億円となりました。

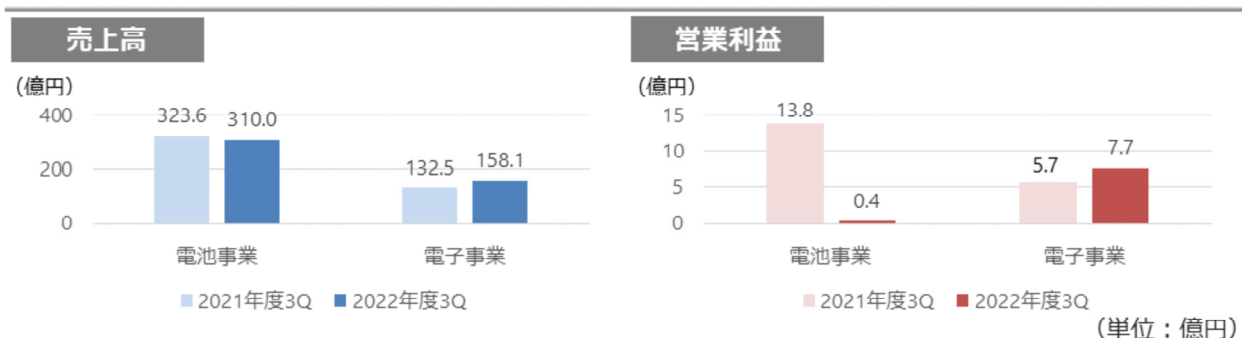
流動負債減少の主な要因は、支払手形及び買掛金等の仕入債務が増加した一方で、未払賞与などのその他流動負債が減少したことや、短期借入金の返済を進めたことによるものです。固定負債増加の主な要因は、退職給付に係る負債が減少した一方で、長期前受収益などのその他固定負債が3.0億円増加したことによるものです。

■ 純資産合計は、前年度に比べ7.9億円増加の132.5億円となりました。

純資産増加の主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が5億円、為替換算調整勘定が0.8億円、退職給付に係る調整累計額が2億円、それぞれ増加したことによるものです。

■ 有利子負債残高は、主に借入金の返済により前年度に比べ3.7億円減少の119.6億円となりました。

# セグメント別情報



		2021年度 3Q	2022年度 3Q	前年同期比	
				増減額	増減率
電池事業	売上高	323.6	310.0	△13.5	△4.2%
	セグメント利益 (率)	13.8 (4.3%)	0.4 (0.1%)	△13.4 (△4.2pt)	△97.1%
電子事業	売上高	132.5	158.1	+25.5	+19.2%
	セグメント利益 (率)	5.7 (4.4%)	7.7 (4.9%)	+2.0 (+0.5pt)	+34.6%
合計	売上高	456.2	468.1	+11.9	2.6%
	営業利益 (率)	19.6 (4.3%)	8.2 (1.8%)	△11.4 (△2.5pt)	△58.3%

※0.1億円未満切り捨て

次に、セグメント別の情報です。

■ 電池事業の売上高はリチウム電池が円安効果も加わって増加したものの、ニッケル水素電池やアルカリ乾電池、設備関連ビジネスが減少したことにより、前年同期に比べ13.5億円減少の310億円、セグメント利益は原材料価格高騰の影響や売上減により、前年同期に比べ13.4億円減少の0.4億円となりました。

■ 電子事業の売上高は各種モジュールやスイッチング電源などが増加したことにより、前年同期に比べ25.5億円増加の158.1億円、セグメント利益は各種モジュールの売上増により、前年同期に比べ2億円増加の7.7億円となりました。



# セグメント別情報（売上概況）

**FDK**

（単位：億円）

		2021年度3Q	2022年度3Q	前年同期比	
					増減率
電池事業	売上高	323.6	310.0	△13.5	△4.2%
	セグメント利益 （率）	13.8 (4.3%)	0.4 (0.1%)	△13.4 (△4.2pt)	△97.1%
	■ニッケル水素電池	【減収】	海外の市販・工業用途向けが減少		
	■アルカリ乾電池	【減収】	2020年度に実施した海外製造子会社株式譲渡による海外向けや国内同業他社向けが減少		
	■設備関連ビジネス	【減収】	販売機種の変化により減少		
	■リチウム電池	【増収】	・国内外のセキュリティ・スマートメータ用途向けが堅調 ・販売価格の見直しや円安効果も加わった		
電子事業	売上高	132.5	158.1	+25.5	+19.2%
	セグメント利益 （率）	5.7 (4.4%)	7.7 (4.9%)	+2.0 (+0.5pt)	+34.6%
	■各種モジュール	【増収】	モビリティ・タブレット用途向けが増加		
	■スイッチング電源	【増収】	半導体装置用途向けが堅調		

※0.1億円未満切り捨て

© 2023 FDK CORPORATION

次に、セグメント別の売上概況です。

■ニッケル水素電池は販売価格の見直しや円安効果もあったものの、海外の市販・工業用途向けが在庫調整やお客側での部品調達難による所要減により、前年同期を下回りました。

■アルカリ乾電池は2020年度に実施した海外製造子会社株式譲渡による海外向けや国内同業他社向けが減少したことにより、前年同期を下回りました。

■設備関連ビジネスは販売機種の変化などにより、前年同期を下回りました。

■リチウム電池は国内外で部品調達難による所要減がありました。国内のセキュリティ・スマートメータ用途向けが堅調に推移し、さらに販売価格の見直しや円安効果も加わったことにより、前年同期を上回りました。

この結果、電池事業全体の売上高は、前年同期に比べ13.5億円減少の310億円、セグメント利益は原材料価格高騰の影響により、前年同期に比べ13.4億円減少の0.4億円となりました。

続いて、電子事業については、

■各種モジュールはモビリティ・タブレット用途向けが増加したことにより、前年同期を上回りました。

■スイッチング電源は半導体装置用途向けが堅調に推移し、前年同期を上回りました。

この結果、電子事業全体の売上高は、前年同期に比べ25.5億円増加の158.1億円、セグメント利益は各種モジュールの売上増により、前年同期に比べ2.0億円増加の7.7億円となりました。

## 2022年度（通期）見通し

**FDK**

（単位：億円）

	2021年度 （実績）	2022年度 （予想）	前年度比	
				増減率
売上高	614.5	620.0	+5.4	+0.9%
営業利益 （営業利益率）	20.8 (3.4%)	7.0 (1.1%)	△13.8 (△2.3pt)	△66.4%
経常利益 （経常利益率）	19.6 (3.2%)	7.0 (1.1%)	△12.6 (△2.1pt)	△64.4%
当期純利益※ （当期純利益率）	7.4 (1.2%)	2.0 (0.3%)	△5.4 (△0.9pt)	△73.0%

※親会社株主に帰属する当期純利益

1株当たり当期純利益	21.47円	5.80円	△15.67円
------------	--------	-------	---------

為替レート	（円/1USD）	112.08円	130.00円	+17.92円
	（円/1EUR）	130.56円	135.00円	+4.44円

※0.1億円未満切り捨て

© 2023 FDK CORPORATION

次に、2022年度の見通しです。

- 2022年度の連結業績予想は、本日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。
- 為替レートは、1USDドル、130円、1ユーロ、135円を想定しております。
- 売上高は、620億円で5.4億円の増収。
- 営業利益は、7億円、純利益は2億円の見通しです。



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

また、本資料では、業績の概略として多くの数値は億円単位で表示しております。決算短信等で百万円単位で開示しております数値を切り捨て表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが不正確に見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信または四半期報告書を参照していただきますようお願いいたします。

**FDK**

確かな技術 育てる未来